

7 科学技術時代における市民性を育成する学校カリキュラムの開発に関する総合的研究  
研究代表者 西野真由美（教育課程研究センター基礎研究部総括研究官）

①研究の趣旨，ねらい

科学技術立国をめざすわが国では、科学技術の発展を支える理数教育充実への期待とともに、科学技術と社会との新しい関係を構築しうる市民の育成が求められている。この社会的要請を踏まえ、学校教育では、理数学習を通して将来への夢を育む教育や学習を生活や社会に役立てようとする態度の育成が課題となっている。また、道徳教育においても、とりわけ欧米各国を中心に、様々な新しい科学技術に主体的・積極的にかかわる資質・能力をもった市民を育成する教育が、「市民性教育」としてカリキュラムに位置づけられつつある。今日の学校教育では、従来、別々の教育課題として位置づけられがちであった理数教育と道徳教育が連携・協働して、科学技術時代を生きる市民性の育成に取り組むことが求められているといえよう。

本研究では、こうした社会的要請を踏まえ、科学技術時代における新たな倫理を育成するカリキュラムを「市民性教育」の課題として位置づけ、理科や数学・情報教育と道徳・特別活動や総合的な時間などの教科外学習との連携に焦点をあて、教材や指導方法を検討することによって、科学技術時代における市民性を育成する学校カリキュラムの開発の方策を確立することをめざした。

②研究成果の概要

- 科学技術リテラシーや科学技術コミュニケーションへの社会的関心をふまえ、学力に関する国際調査の結果や先進校における調査結果を踏まえ、科学技術倫理を育成する市民性教育の課題を明らかにした。
- 新学習指導要領における理数教育の改善の方向性を活かし、理数教育と道徳教育をつなぐカリキュラムの具体案を検討した。
- 先進的な実践事例を収集・分析し、科学技術倫理を育成する教材、指導方法や授業の在り方を検討し、提案した。
- 以上を踏まえ、「批判的思考力」と「コミュニケーションによる合意形成力」の育成を柱とする道徳教育のカリキュラム構想をとりまとめた。

③中期目標との関連性

- 基礎研究部活動目標3「社会の変化に応じて新たに要請されている教育内容の円滑な実施に資するための調査研究を推進する」の一貫として、今日的な教育課題である科学技術に積極的に関わる市民性を育成するための道德教育の指導方法を研究した。

④今後の研究予定

本研究によって、科学技術教育と連携した道德教育カリキュラムのフレームワークが明らかになった。今後は、これに基づき、情報モラル教育など、より具体的で喫緊の教育課題について、これまでの研究で得られた成果を活かして、カリキュラムの具体案を提案していく予定である。

⑤キーワード

(1) 道德教育 (2) 科学技術教育 (3) 市民性教育

⑥本研究の研究報告書

『科学技術時代における市民性を育成する学校カリキュラムの開発に関する総合的研究』（平成19～20年度科学研究費補助金基盤研究(C) (2) 研究成果報告書)